

1 盈進小学校

ここからスタート!

安政5年(1858)、宮之城島津家第15代久治公が、領内の子弟教育のため、学問を学ぶ「盈進館」と武道を修練する「厳翼館」を建てました。盈進館が盈進小学校の前身で、創立160周年を迎えました!



▲島津久治公

学校名の由来

中国の古典「孟子」の一節「源泉混混不舍晝夜 盈科而後進放乎四海」から。水が穴を満たしてから初めて進むように、学問の道もよく順序を踏まえて進むことが大事」という意味がこめられていたのです!

校章の由来

「盈」の字を囲むのは桑の葉、その下には三つの繭が描かれています。これは、昔、宮之城が養蚕が盛んだったことを表しています。



校内の史跡

◎島津久治君謝恩之碑

明治5年に久治公が亡くなった後、墓前に供えられた石碑で、92名の家臣の名前が彫られています。元は吉野の墓地にありましたが、平成3年の墓地移転で、石碑は盈進小学校に、遺骨は宗功寺墓地に移されました。

◎大浦兼武銅像台座

明治・大正時代に各種大臣を歴任した盈進館出身の偉人! 昭和2年にこれまでの功績を称えて銅像が建てられましたが、太平洋戦争に供出され、現在は台座だけが残っています。



▲当時の銅像

次は、2城之口の史跡「楠木神社」

盈進小学校創立160周年記念 校区 史跡等案内 パンフレット

盈進小学校から
宗功寺墓地まで



イラスト: 盈進小学校6年生作品



イラスト: 盈進小学校6年生作品

コースガイド

1 盈進小学校

2 楠木神社

3 島津金吾歳久の
供養塔

4 霧島神社

5 虎居樋門

6 宗功寺墓地

裏面
ガイドマップ
あとがき

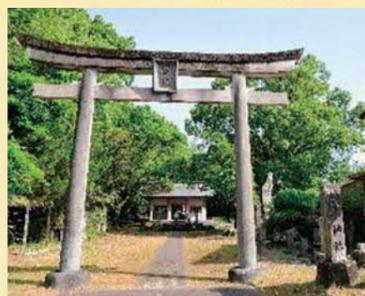
城之口の史跡

2 楠木神社

!! 盈進小学校より徒歩10分



焼肉屋さん「一福」がある場所に、昔は松尾神社と湊川神社という2つの神社がありました。昭和20年に、松尾神社を愛宕に、湊川神社を城之口に移転して、湊川神社は「楠木神社」と名前を改めました。



楠木神社にある史跡

◎御神体

楠木神社の御神体は木造の楠木正成像です。これは、水戸光圀が兵庫県の廣巖寺に3体納めたうちの1体だといわれています。明治時代、私学校の守護神として祀られていましたが、宮之城区長の辺見十郎太が、県の許可を得て松尾神社へ移しました。明治18年、松尾神社の隣に湊川神社が新設されると、御神体も湊川神社へ移され、戦時中は、出征兵士が武運長久を祈願したそうです。

◎勝海舟が書いた碑と惆悵旧碑

西南戦争後、薩軍として出兵した宇都宮平一、和泉邦彦らは戦死者のための慰霊碑建設を計画。碑文の監修を中村正直に、題字を西郷隆盛と親しかった勝海舟に依頼することになりました。海舟は依頼を断り続けていましたが、14回目の訪問には根負けして、「惆悵舊(旧) 歎如夢」の題字を書いてくれたそうです。

手前が勝海舟が書いた碑、その後ろが惆悵旧碑▶



次は、3城之口の史跡「島津金吾歳久の供養塔」

城之口の史跡

3 島津金吾歳久の供養塔

!! 楠木神社より徒歩3分

悲運の武将 島津歳久

歳久は戦国時代の島津四兄弟の三男で、虎居城を居城として祁答院地方(現在のさつま町と薩摩川内市の一部)を治めていました。領民からは「金吾さあ」と呼ばれて、とても慕われていたそうです。しかし、関白秀吉が大軍を率いて薩摩に攻めてきた際、他の兄弟は降伏したにも関わらず、歳久は最後まで抵抗したことが秀吉の怒りを買ひ、義久に弟歳久の首を差し出すよう命令しました。歳久は義久に呼び出されて帰る途中、追っ手に電々水に追いつめられて、そこで切腹しました。命令とはいえ、義久にとってもつらい選択だったことでしょう。



町指定文化財 島津金吾歳久の供養塔群

元は昌英寺というお寺でしたが、正徳二年(1712)、宮之城島津家第五代久竹の長女慈光院が境内にお堂を建て、その中に歳久の供養塔を建てた後、歳久の両親、根白坂の戦いで戦死した忠隣(養子)の墓をこの地に移転したと言われています。他にも、松巖昌英大姉(宮之城島津家島津忠長の長女)と慈光院の墓があります。



▲左から歳久の父、忠隣、歳久、松巖昌英大姉、歳久の母



▲慈光院の墓

次は、4虎居の史跡「霧島神社」

虎居の史跡

4 霧島神社

!! 歳久の供養塔より徒歩20分

元は曇秀寺というお寺でしたが、廃仏毀釈で壊されてしまいました。その後、虎居の人たちがお金を出し合って霧島神宮から神様を勧請し、霧島神社ができました。しかし、明治政府は神社を統合して減らすことを勧めたため、鬼丸神社、武田神社、立神神社が霧島神社へ合祀されました。



境内にある石造物

◎仁王像

元は宗功寺に2体あったもののうちの1体で、もう1体は作者の大鐵家へ引き取られました。廃仏毀釈で壊される前に持ち出したといわれていますが、現在首と腕は紛失しています。さてどこにいったのでしょうか?



◎カッパ像

ここにはカッパ像とも呼ばれている石像が1体あります。下半身と腕がなく、頭には穴が空いています。元は仁王像のようですが、穴に水がたまった姿がカッパに見えたのかもかもしれません。



◎梵字の彫られた石

直径1m程度の円形の石造物に梵字が1字彫られています。元は曇秀寺にあったものだそうです。何に使われたのかはよく分かりませんが、「ボロン」と読むそうです。



次は、5虎居の史跡「虎居樋門(虎居城跡対岸)」

虎居の史跡

5 虎居樋門(虎居城跡対岸)!! 霧島神社より徒歩7分

虎居地区では平成18年7月の豪雨で堤防の決壊や浸水被害に遭い、屋根上まで水位が上昇したことから、災害対策事業の一つとして、堤防の内側に水が逆流しないように樋門が設置されました。そして、洪水の原因の一つに、川内川が大きく湾曲して川の水が流れにくくなっていることから、分水路を造り、堤防までの幅も広がられました。現在、周辺には遊歩道や広場も整備され、憩いの場にもなっています。

虎居城跡

樋門の対岸に見えるのは虎居城跡です。城といっても石垣や建物は残っていません。これは「山城」と呼ばれ、いくつもの「曲輪」と呼ばれる丘があり、その周りには深い堀が掘られ、攻め落とすにはいくつもの難関を突破しなければなりません。さらに周りを川内川が囲んでいるため、とても攻めにくい構造になっていました。虎居城は平安時代に大前氏が築いたと言われ、その後、祁答院渋谷氏、島津歳久、北郷時久、宮之城島津家が居城としますが、慶長20年(1615)の一国一城令によって、廃城となりました。なお、分水路を造る前に埋蔵文化財発掘調査が実施され、元の地形や曲輪の構造などが明らかになりました。

次は、6 虎居の史跡「宗功寺墓地」

虎居の史跡

6 宗功寺墓地 虎居樋門より徒歩15分

ここには宮之城島津家歴代の当主とその家族のお墓があります。江戸時代、宗功寺は宮之城島津家の菩提寺でしたが、廃仏毀釈で壊されてしまい、お墓だけが残っています。墓地には当主、夫人、子どもたちのお墓や石碑など、たくさんのお石造物があります。特に祠の形をした大きなお墓が並ぶ姿は圧巻です!

お墓の特徴

お墓は全て石で造られていて、2代忠長夫婦の墓以外は、江戸時代を通して大きな祠の形をしています。屋根や台座の彫刻は、細かい所まで表現されています。



宮之城島津家の家紋



宮之城島津家は時代によって家紋が①→②→③と変わります。9代久亮公から宗家と同じ丸に十字紋の使用が許可されました。祠型の墓石には、どこかに家紋が彫られていますので探してみてください。
◆ヒント：屋根をよく見てみてね。

ガイドマップ



川沿いお散歩コース

- 7 轟之瀬
- 8 与謝野晶子・寛歌碑
- 9 水天神社
- 10 殿様茶屋跡
- 11 殿様水
- 12 時吉六地藏塔
- 13 盈進水泳場の碑
- 14 渡し口
- 15 渡し場跡
- 16 末松金四郎碑
- 17 片倉製糸工場跡

ここもおすすめたよ!



コースガイド

- 1 盈進小学校
- 2 楠木神社
- 3 島津金吾歳久の供養塔
- 4 霧島神社
- 5 虎居樋門
- 6 宗功寺墓地

スマートフォンアプリ「tmate(ティーメイト)」でもご案内しています! QRコードからチェック!



祖先世功碑

4代久通公のお墓の前に、亀の台座に大きな石碑を乗せたものがあります。石碑には島津家の由来から始まり、金山発見など薩摩藩の財政に寄与した4代久通公までの歴代当主の功績が漢文で彫られています。碑文を全て読めたら台座の亀が川内川に水を飲みに行くといわれています。これは亀趺といって、台座は亀ではなく龍が産み落とした子どもで鼻尻(ひいぎ)というそうです。よく見ると牙や耳があって、石碑の一番上に2匹の龍が彫られています。



史跡等案内マップ作成に協力していただいた盈進小学校六年生のみなさん

【あとがき】校区内を歩いてみると、私たちの知らない史跡がたくさんあることが分かりました。そして、2018年に盈進小学校は創立160年を迎え、その歴史と伝統を今に引き継いでいます。このパンフレットを通して、たくさんの方に盈進小学校とその周辺の歴史を知ってもらえればと思います。



製作:さつま町文化財ボランティアガイド「さつまガイド」 協力:さつま町教育委員会、盈進小学校 連絡先(事務局):TEL 0996-53-1732 FAX 0996-53-0900